

## 第5回 UNESCO東アジア子ども芸術祭 in モンゴル 開催

去る7月27日～29日、国連教育科学文化機関（UNESCO）の主催により「東アジア子ども芸術祭」がモンゴルの首都ウランバートルで開催されました。国連が定めた「世界の子どもたちのための平和と非暴力の国際10年」（2001年～2010年）の一環として、東アジアの子どもたちが文化交流を通じて相互理解を深めることを目的に、2001年より実施されています。

5回目となる今年の芸術祭では、5カ国1地域（中華人民共和国、朝鮮民主主義人民共和国、大韓民国、日本、モンゴル、マカオ）の子どもたち約300名が一堂に会し、舞踏や音楽など各国の伝統文化を披露しました。

日本からは、石見地区ユネスコ協会の推薦で、1949年に結成された宅野子ども神楽保存会（代表・藤間元康会長、会員57名）のうち小・中学生16名が参加し、約300年前から島根県宅野地区に伝わる神楽舞「大蛇（おろち）1」を披露しました。期間中、言語・習慣の異なる各国の子どもたちは寝食を共にし、さまざまな交流を通じて友情を育みました。

また、平山郁夫 UNESCO 親善大使、栗原小巻日本ユネスコ協会連盟スペシャルアドバイザーも出席し、未来の平和を担う子どもたちへメッセージを送りました。



素尊（すさのう）と大蛇（おろち） 1の死闘

### 1 大蛇（おろち）

3つの舞から構成。最初の舞では、8人の娘のうち7人を大蛇に喰われ、最後の8人目の末娘を大蛇に献上しなければならぬと老人、老婆が嘆き悲しんでいるところに素尊（すさのう）が現れ、「娘を私に預ければ大蛇を退治する」と約束します。2番目の舞では、大蛇に飲ませる毒酒造りを素尊から命じられた盲七（もうしち）が毒酒を造ります。最後の舞では、素尊と大蛇の死闘が繰り広げられます。物語では、退治した大蛇の体内から出てきた宝剣を素尊の姉に当たる天照大神（あまてらすおおみかみ）に献上しますが、宅野の神楽舞は大蛇を退治して終わりとなります。

「世界の子どもたちのための平和と非暴力の国際10年」

「UNESCO 東アジア子ども芸術祭」

に関する詳細はこちら

<http://www.unesco.jp/contents/10/children.html>